

令和4年度第3回 いいづな歴史ふれあい館協議会

会議メモ

日時：令和5年(2023)3月10日(金)

15:00～17:00

場所：いいづな歴史ふれあい館 小ホール

1 開 会

富樫館長 これより、令和4年度 第3回協議会を開催します。

2 あいさつ

馬島教育長 皆さんこんにちは。飯綱町にも梅の標本木がありますが、2輪咲いておりました。来週学校の方では卒業式が予定されていて、全校生徒で式がやれるのは4年ぶりとなる。この間、地域の皆様や歴史ふれあい館には、いろんなところで支えていただいた。今日は令和4年度最後の歴史ふれあい館協議会になります。よろしくお願いします。

中村会長 過日、館長さんから資料を見せていただいた。町制20周年記念に向けたリニューアルを含めた館のあり方について、これまで皆様方と一緒に検討してまいりました。今日もまたご意見を頂戴できればと思います。館長さん、学芸員さんからも、館の長年の課題等をしっかりとまとめていただいています。お金がたくさんあればリニューアルはできるのですが、「飯綱町の文化財展」のときにも感じましたが、お金の換算できない価値が文化財にあるということを思うと、ただ立派なものができることよりも、皆が利用していい活動が出来ている、そういう館になってほしいと個人的には思います。町民の皆さんに利用していただける、参加できる館にするためにどうしてゆけばよいか、と思っています。限られた時間ですが、建設的なご意見とともに、来年度に向けて展望が開けることを期待しています。よろしくお願いします。

富樫 ありがとうございます。資料の確認、出席者確認をお願いします。資料に一部誤植がありますので訂正をお願いします。では議事について、進行を中村会長にお願いします。

3 議 事

中村 資料に沿って、最初に令和4年度特別展「飯綱町と水の恵み」のふりかえりと、来年度に向けた予定があります。事務局から説明をお願いします。

(1) 「飯綱町と水の恵み」展のふりかえり について

富樫 表に特別展の概要がまとめてあります(以下概要を説明)。見学者の属性としては、町内の方が約6割、県内の町外の方が約3割となっていました。見学者の年代をみると、小学生以下の方と、60～70代の方が突出して多い。この傾向は、全観覧者数を含めて、一昨年の町制周年記念特別展「飯綱町の文化財」のときの傾向とあまり大きな違いがなかったといえます。展示会の内容は大きく違っていたので、実際に来られた方には違いがあったかもしれませんが、見学者の年代の傾向としては同様という結果でした。

中村 よろしいですか。何か付け加えるべきこと、あるいは質問があればお願いします。

委員 今回の特別展で、用水の関係者はどのくらい来たかとか、そういう特徴はわかりますか。

富樫 来館者の詳しい内訳はわかりませんが、地区からみると芋川区、倉井区、普光寺区の3区と、それから牟礼区と福井団地の方々が人数比でとても多かったです。それ以外の地区の方々になるとガクッと少なくなるという傾向がありました。なお、見学者の属性の傾向について付け加えると、中学生の見学がほとんどなかったことが顕著で、残念な点です。小学生と高校生の人数が多かったのは、一部のクラスでまとまって見学する機会があったためです。高校では、里山の学習の一環で見学に見えました。中学生であれば、展示に関連する説明などもかなり理解できると思うので、このせっかくの機会に観てほしかったというのが感想です。

委員 小学校は授業で来たのですか。

富樫 すべてのクラスではなく、用水に関連した、地域を学ぶ授業をやったクラスが見学にみえました。

委員 小学校の用水の勉強のところで「だんごりの会」でも協力をさせてもらった。赤塩地区の盆踊りの歌に出てくる「稗(ヒエ)」に注目し、用水が出来る前に食べていた稗と、用水ができてから食べられるようになった米を実際に食べくらべてみることをやりました。子どもたちも意欲的に取り組んでくれて、初めての稗でしたが、鍋が空っぽになるまで食べてくれました。「うまいや」ってということになると用水のありがたみをわかってもらうにはちょっと困るんですが。こうして意欲的に取り組んでもらえて、用水というのは地域のことを知るうえでとても重要な教材であるということがよくわかりました。

中村 私も30代半ばで三水の小学校に赴任し、二十塚のあたりが荒れていたもので、農協の人に起こしてもらってソバとヒエとアワとキビの4種類をつくったことがあった。キビがとってもきれいで、食べくらべてみたりしました。そういう体験的な学習が取り入れられるといい。学校から歩いていくと、二十塚まで往復1時間以上かかりますが、1週間に1回ずつくらい行きました。用水がないところでは、昔の人はこんな風に開墾したんだということもわかってよかったです。

委員 昔は食べることが出来るようにすることが大変だった。

馬島 米は年貢でとられて、自分たちの口に入らないという時代もあった。

委員 青森では冷害のために米が出来ないということもあった。

委員 米ができないところは貧乏で、ヒエやアワを食べるより仕方なかった。用水が出来て、米がとれるようになり、地域の活力になったということだ。

中村 冷害で米がとれそうにない年には、秋ソバを撒いて。ソバは3-4年経っても挿れば食べられるから非常食にもなった。そういう話をお年寄りから聞くと、子どもたちも作るのに力が入るけどね。

委員 歴史講座を2回やっているが、どのくらいの方がみえたのか？せっかくいいものを企画されたのであれば広報とかを工夫して、なるべく会場がいっぱいになるようにしてほしい。

富樫 歴史講座については第1回が52名、第2回が60名という参加者でした。コロナの影響が広がっていた時期でもあったので、どの程度の人数が適切かは判断が難しいところもあった。

委員 私の印象としては、歴史講座について皆さん十分に関心をもって参加してくれたと思います。ただ、講座に参加した帰りに展示も見てくれるかという、話を聞いてすぐ帰る人もけっこういたようで、もったいないなと思いました。講座と展示を一緒に見てもらう工夫をしてもらうとよい。歴史ふれあい館に来たことがない人をどう呼び込むか、邪道かもしれないが、福引をやってお土産をつくるとか、そんなこともやれば新しい人が来ることになると思う。子どもたちの多くは学校の授業で来ていたようですが、この施設があるということを知るうえでも学校で来るのはいいこと。一方で小学生・中学生と一緒に来れる親たちをターゲットにした呼び込みをやってみてはどうか。

委員 年代別で見ると、用水に関わっている人たちが半分よりも少し多い感じだ。直接用水に関わっていない人たちに来てもらうために、どうやったらいいかを考えてもらいたい。

委員 三水小4年生は毎年のように三水の名前の由来から用水のことを学んでいる。鳥居川の取水口から芋川神社のところまで川が流れているということ自体が不思議なことだと感じる。学校の授業では小玉用水は扱っていなかったが、今回の展示では小玉用水も入れて町全体のことを扱っていたので、観に来た子どもたちは幸せだったと思う。今後も展示の一部を残していただければ、学習に活かせる。

中村 これまでも様々な企画展を観てきたが、PRが足りなかったかという点必ずしもそうではないと思う。案内チラシを全戸配布したり、放送で何度も案内を流したりもしている。結局ここに関心がある人は家族でも観に来てくれるが、そうでないと来てくれない。できれば子どもたちが家族を誘って観に来てくれればいいが、資料のグラフにあるように中学生は非常に少なくて何とかできないかというも思う。子どもが関心を寄せるためのいい方策はないものか。

委員 ナウマンゾウ博では、基本的に親子連れの来館者が多く、小学生も多い。スキーをしに来たが、悪天候でスキーができないときなどにここで遊んだり、体験して学んだり、安全に時間が過ごせる場所ということで利用されることが多かった。遊びというと中学生は年齢が中途半端で難しい。最近の博物館はアミューズメント化している。ちょっとしたスペースがあって、工夫をすれば遊べるようにはできる。そういうのがあれば、口コミなどでも広がっていく。

中村 後ほど基本計画の話もあるので、そこでまた皆様からのアイデアをいただければ。ふりかえりはこのくらいにして、次の令和年度の行事予定と特別展について、説明をお願いします。

(2) 令和5年度の行事予定と特別展について

富樫 町3月議会の会期中でもあり、要求している来年度予算案が通った場合の予定ということになる。

業務委託する2項目は、馬島教育長と高橋次長のご尽力があり、令和5年度の予算要求としてあげられています。ひとつは飯綱町全域をカバーする地形模型です。これは前々からの課題で、3階にある模型を改修するもの。それと常設展示等の改修にかかる設計委託です。町制20周年の令和7年度に向けて改修するにしても、設計なしではものが出来ません。そこで、まだ詳しい中身が決まっているわけではないですが、設計委託の予算要求をしています。それ以外の館主催の行事等については、資料に箇条書きになっているとおり。ひとつは、今年が丹霞郷の命名90周年ということで、アップルミュージアムとの共催という形で予定しているミニ展示会があります。小山さんから補足説明を。

小山 展示会場等を含めて、主体はアップルミュージアムのほうで企画されている。展示資料は歴史ふれあい館の収蔵品を活用する。他の展示会予定もあるので、受付わきのスペースに展示ケース1台を設置し、壁面を使ったミニ展示となる。講演会も1回予定されていて、私のほうで対応します。

富樫 それと昨年好評だった「夏休み子ども探検隊」を、行先を決めて企画したいと思っている。また、

用水の現地見学がしたいという声をたくさんいただいているが、昨年中は町のマイクロバスが使えないという制約があって実現できなかったが、令和5年度には何らかの形で実施したい。メイン企画の特別展「飯綱町と食べごと文化」については後でご説明します。その他、「歴史講座」の開催。「星空観望会」は昨年8月以降中止にしていますが、令和5年度には再開を考えたい。これについては、本日夜に天文分野の運営協力員会議があり、そこで方針を決定する予定。歴史ふれあい館協議会について、今の基本計画がまともれば、リニューアルに向けてより個別具体的な検討もお願いしていきたい。それと、館の紀要11号とふれあい館だよりの発行を予定。

(つづいて別紙の令和5年度特別展企画(案)を説明)。特別展では町の「だんごりの会」のご協力をいただきながら、この地で季節に応じて食べられていたかつての普段の食事がどのようなものだったのか、併せてそういう食を体験する機会も設けたい。食との関連において、健康の問題にも触れたいので健康管理センター(健康福祉課)の栄養士の方にも協力について相談をすすめている。食に関する催しや講座等は町でこれまでも取り組んでいるので、関係する町企画課や産業観光課にも協力をお願いしたい。展示の趣旨としては、「懐かしい」で終わるのではなく、若い人たちや次世代に伝えていくことも視野に入れた展示にする予定。テーマと講師は未定だが、関連行事としての講演会も予定する。町民会館の大きな改修があるので、すでに9/24の日程で会場を予約だけはしています。

中村 ではご意見、ご質問を。

委員 地形模型については、どういう改修を予定されているのか。

富樫 部分的に作り増しをするか、全部を作り直すか、どちらでもあまり費用が違わないということがあります。もう少し詳細な見積もりを検討しながらすすめていきたい。

委員 あまり金額が変わらないのであれば、新しく作り直したほうがいいのでは。

富樫 最近の技術だと3Dプリンターを使った模型製作もある。逆に昔ながらの手作りの模型には、3Dプリンターに地図を貼り付けたような模型とは違った良い味がある。一方で、そういう手作りの模型を作れる人が今で

はかなり少なくなっているという事情もある。

中村 可能であれば、体験として模型づくりに参加できるようなことができるといいが。あるいは親子で来て、いろいろなことが調べられるような操作について、試してみるとかできればと思うがどうでしょうか。

委員 用水がどういう風に流れているかを立体地形模型の上で見ることができると、なるほど分かって面白いと思うが。

富樫 水の特別展では、地形模型に活用するイメージで水系集約図を作成したので、それは実現できる。

馬島 3D プリンターで模型が出来るというが、新しい技術で作成すればより正確なものができるのか。

富樫 詳細なデジタル地形データを使えば、詳細な模型は出来る。

委員 妙高ビジターセンターの例もある。計画にはプロジェクションマッピング技術に関する記述もあった。

様々な自然環境の要素とかを映像に映し出すことができるし、特別展でやったような用水や文化財の位置などを落とせるようなものになればと思う。ただ、プロジェクションマッピングはお金がかかるんでしょうね。

富樫 かなりかかります。

中村 前に家族で来たときに、常設展の落とし穴について孫から「落とし穴って今でもあるの？」「どこにあったの？」って聞かれた。今はゴルフ場になっているが、遺跡の場所くらいは示して、どこにどのように穴が並んでいる、どういう風に利用したのか、模型でも、パネルでもいいが、説明があるといい。常設展に限らず、企画展でも、子どもたちにさらに興味関心をもってもらい、調べたいときに、それに応えられる準備をしておく必要がある。そういうことが、子ども自身がリピーターになってくれるきっかけにもなる。

委員 「夏休み子ども探検隊」は、今後もぜひ続けてほしい。必ずしも探検でなくてもよい。低学年の子に限らず、希望があれば親子で体験できる機会をつくっていただきたい。親子で来ることによって、世代がつながっていく。大変かもしれないが、お願いしたい。

中村 「食べごと文化」の特別展について、何かご意見がありませんか。

委員 特別展に会として協力をさせていただくが、「だんごりの会」の発表会ではないと思っている。これまでの会の活動で蓄積してきたことはたくさんあるが、その中で見学者の興味を引くように、どの部分を取り上げていくか、歴史ふれあい館の方と一緒に知恵を絞る必要があると思う。お蔭で「食の匠」養成講座に若い人たちが熱心に参加されているので、その人たちが関心をもてる内容でなれば、子どもたちも来られるものになるし、たとえば「あそこに行けばうまいものが食べられる」というようなことがあってもいいと思う。以前、歴史ふれあい館で抹茶を引いて飲んでいただいたことがあるが、好評でした。体験では、おいしいものが食べられることがひとつの魅力になる。「ヒエ(稗)」ってどんなものかっていうことにも、結構興味を持つ人がいる。いろいろとお知恵をお借りしたい。

馬島 農業とともに発展してきた町の食文化というものを振り返り、「懐かしいね」だけで終わらない展示という話

があり、それはとても大事なことだと思う。地球的規模での食糧危機があるし、国際紛争の影響で輸入しにくくなるという問題もある。細かな話でなくても、たとえば町の農産物で町民が暮らしていけるのかということも知りたい。そんな新しい視点を加えてほしい。

委員 新しい視点ということで、ウクライナ戦争のことがあり、食料をこれからどうやって確保していくかというのは

大事なことだと思う。朝起きて、ごはんを炊いて、屋敷の外を一回りすればその日の食材は間に合う。多くの飯綱町の人たちは、今もそういう生活をしていて、そのことは「食の風土記」をまとめたときにわかった。そんな暮らしであれば、たとえ何があっても、ゆるぎなく生きていかれるということ、子どもたちにも伝えたい。これまでの活動も、そういう確信をもってやってきた。そのことの意味が再認識される時代になってきたと思う。「だんごりの会」は時代の先取りをしてきたといわれることもあった。最近うれしいのは次に続くような若い人たちが出てきたということ。行政との協力関係もある。自治体規模が大きい長野市では難しいことも、飯綱町であればやれることがある。そのことを基本に置いた特別展ができるように、よろしくをお願いします。

中村 2階の創起庵が会場ということですが、コーナーごとの展示の構想もあるのか。

富樫 資料の企画案にある①～⑥の内容を、具体的にまとめていくことになる。

中村 退職してから私も畑をやっているが、野菜などを作ってみると、余ったらもったいないということがある。農家

の人たちの食生活の中にはそういう感覚があると思う。たくさんとれたときには保存食のこと。それと、旬のもののおいしさや旬の良さとか、そういう感覚を呼び覚ます機会にもしてほしい。

馬島 私の母親のように戦前から生きてきた年代の人は、田畑を荒らしておくことができない。大根でも白菜でも

食べきれないとわかっていても、山ほど作る。かといって、直売所に出すにも手続きが大変。たとえば特別展の期間だけでも、ここに野菜を置いて、欲しい人にもって帰ってもらうというようなことができないか。

委員 旬という話では、昨年カンマッセを通じて東京の人たちがりんご狩りに来たとき、あまり手をかけない

ですむ大根煮物を提供した。ごはんは家にあった「はざ架け」の新米で、家の味噌で味噌汁を出した。一番喜ばれたのは、ごはんに生みそをつけたもの。そういうのも、意外といい体験になるのかもしれない。

馬島 都会の人は、ステーキは食べられるかもしれないが、畑のとれたて野菜なんかを味わうことは難しい。

委員 都会の人向けの特別展をやるわけではないが、実はそういうのが「おごちそう」なんだということ、町の若い人たちや子どもたちに知ってもらいたい。

委員 ここに育った人には「おやき」がある。他所から来た人はほんとに喜んで食べてくれるが、うちの子どもたち

はおやきを食いもしない。あたりまえで気づく機会がないから。他所から来た人がそのおいしさを教えてくれることになる。

委員 箱膳体験会の経費や、参加費等は？

富樫 歴史ふれあい館だけの主催でやるというより、できれば町の食育に関わる体験会や講座、そういう催しと

協力してやれればと思っている。特別展があるし、展示内容の一部を盛り込んだ食の体験会を開催するという形にできるとよい。そのためにも、なるべく早い時期に関係課と打ち合わせを行っていききたい。「だんだんの会」の皆さんも、そういう催しはこれまでいろいろ経験されているので心強い。

委員 基本的に箱膳のメニューは一汁一菜から考えるので、そんなに高価な食事にはならない。コロナのこともあるが、箱膳 100 人の会のようなものもやっでできないことはないと思っている。

中村 また、アイデアをいろいろ出していただくようお願いします。よろしいですか。では、3 番目の歴史ふれあい館の基本計画についての説明をお願いします。

(3) 歴史ふれあい館基本計画（案）について

富樫 基本計画はゼロから作るというのではなく、これまで協議会で話題に上ったことを集約する内容になっています。その意味では、町のことを知っている自分たちの手で作る計画ということになると思います。（以下、資料に沿って計画案の概要を説明）。

第 3 章には博物館の普及・学習活動、第 4 章には施設環境整備と博物館機能の拡充について述べています。リニューアルというと、「既存の展示をどう新しくするか」に関心が集まるが、博物館として大事なことは資料収集と収蔵・保存の機能があって、それらの情報をどのように多くの人に活用してもらうかということにあります。第 5 章は、現在専門業者に委託しイメージ図を作成中で、まだ一部に空白部分を残しています。まえがきにあるように、この館が将来どういう館になっていけばよいかをまとめた計画なので、計画のすべてが一気に実現するものではありません。令和 7 年度の改修は、ここに盛り込まれた計画のどの部分を実現させるかということになります。令和 7 年までの改修を、その場限りのものとしなないためにも、5 年、10 年、20 年と時間がかかっても、あるべき方向に着実に進んでいくことが大事で、そのための計画です。協議会の協議の中で今までになかった説明としては、12 ページの資料収集・収蔵・保存機能に関連した 3 施設の紹介がある。この中で 3 番目の倉井下水処理施設については、町の集落排水施設が公共下水道として統合されることに伴い、将来この施設が廃止されることになっている。このほど、その施設の後利用策として埋蔵文化財等の収蔵庫として利用できる目途が立ちました。現在の施設が廃止されるのが令和 9 年度の予定でまだ時間があります。それまでの間に、歴史資料の保管と利用に関する計画を立て、この施設を有効に活用していくことにしたいと考えています。

基本計画案とその中の展示イメージ図等について、疑問や追加・訂正に関する意見等がありましたら、よろしくをお願いします。

中村 合併 20 周年にあたる令和 7 年度までということにはこだわらず、基本計画には将来にわたってこの博物館がどうあってほしいのかまでを視野に入れ、様々な情報が盛り込まれている。3 章、4 章、5 章と分けてあるが、たとえば第 4 章については、博物館の収蔵庫について改めてきちんと整理し、保管するための箱物の整備とともに、歴史的な資料を有効に利用できるようにデータ管理とデータ提供機能の拡充という課題がある。文化財保護の観点でも大事な章になると思います。また第 5 章は経費の問題等も含めて、今後

内容が変わってくる部分になる。一昨年に皆さんと一緒に見学させていただいたナウマンゾウ博物館では、入口を変えただけでも館の印象が大きく変わったということがあったようですが。

委員 少しずつ展示の改修は行っているが、大きな展示室の中身を博物館のリニューアルとして変えてはいない。あまり予算はかけられず、ほとんど入口を変えただけだったが、それでも「リニューアルしたね」と感じてもらっている。それから、大事なのは歴史ふれあい館が地域の皆さんによって支えられていること、地域の発展のために情報発信がなされ、町づくりの拠点の一つと捉えられるかどうかです。日本も世界もこれから大きく変わっていく中で、この町が将来どうなっていくのか、先を見る必要があります。おそらく地域に根差すものが一番いいということになっていくと思うので、そういう部分の情報発信をしてほしい。

中村 星空観望会については、今日の夜に会議が予定されているようですが。

委員 コロナ禍の中で観望会が中止になってきたので、まずはそれを今後どう再開するかが問題。それから、ここの望遠鏡でこんな風に見えるとか、こんな写真が撮れるということも発信していければ。

中村 一昨年の文化財展のとき、アンケートで「新たに文化財にしたいもの」を聞いてみたら、「飯縄山」とか「飯綱町の星空」という回答があった。我々が気付かないようなところに、町の良さを感じている人もいる。星空観望会においても、5月にはこういうものが見られるとか、年間の季節ごとに見られる星の話題をもっと発信してもらえたらいい。

委員 そうですね。現在は、観望会の参加者にはその時期の星に関する簡単な資料はお渡ししている。あと、望遠鏡を使わずにベランダで星を見ることもできます。

委員 夏休みなどに流星を見る催しもいい。

委員 基本計画案の資料はこれまでの検討よりも具体的なことが盛り込んであり、わかりやすくなっていると思う。普及・学習活動に「連携」と書いてありますが、そこには町の図書館との連携もあっていい。じつは図書館と博物館が同じところにあり、共有スペースがあり、お茶も飲めるようになるといいなという思いがあります。これまで協議会での意見としては言うことはできなかったことですが、30年先を見すえるなら、ぜひそうやってほしい。町の文化の拠点、知や情報の拠点になってほしいと思っています。

中村 この館が設置される準備段階にも、館の隣に図書館ないし文書館を併設し、休憩室もある、という構想が話題としてあがっていた。でも如何せん、その話は立ち消えになってもう30年弱になる。リニューアルを考えるようなときに、そういうことを改めて話題にのせるのもいいと思う。

委員 私も大賛成です。食べ物やいろいろな暮らしのこと、たとえば木綿玉のことに興味をもつと、木綿の歴史についてもっと知りたくなってくる。関係資料を手にとって探して見たいとなれば、図書館が頼りになるので、ぜひそういうふうになってほしい。

委員 基本計画案では「目次」があって全体の構成がわかりやすくなった。ただ、細かな現状と課題がいつしよ

に書いてあるので、どうやって進めるのかがわかりにくい。博物館の現状がこうで、それがこうなっていけばという書き方のほうが、一般の人にはわかりやすいのではないか。将来にわたってこの館がやりたいことと、やるべきことが書いてあるが、できればいつまでに何をやるか計画年度を示してほしい。あるいはもっと定量的な数値目標を入れてほしい。イメージ図等にユニバーサルデザインを反映させたり、「幅広い世代の交流」には子どもと高齢者との交流という言葉を盛り込めないか。倉井の下水処理施設については、将来ただの物置になってしまわないよう、計画的に利用をはかってほしい。現在使われていない2階のトイレスペースについては、課題があるとしても、基本的にはトイレが使えるようにするのが先ではないか。エレベーターの改修は、早急に予算要求をすべき。リニューアルは、ぜひうまくやってほしい。

委員 この館は、今のところ小学校2年生～4年生の利用があるが、学校がもっと利用しないとったいないと思う。たとえば館のスタッフやボランティアの方が出かけて行ったり、ここに子どもたちを連れてきたりして、放課後の子どもたちが利用できるようになるといい。とくに高学年の子たちには有効に利用してもらえないではないか。それと、中学生の利用が少ないという話があったが、学校職員と館のスタッフによる情報交換の機会をもち、中学校が利用できそうなことを考えてもらえればと思う。また小学校の稲作体験は今後もやっていく授業だと思うので、千歯こきや唐箕、足踏み脱穀機とかを教材として利用させてもらうためにも、学校も昔の道具のひとつの保存場所として検討してもらえればと思う。

中村 私も以前教員をしていたのでと思いますが、学校では、「ただこういう施設があるから行けよ～」といったも、それだけですぐに子どもたちが行くようにはならない。それよりも先生たちが、この館の企画展や館の情報をよく知っていて、たとえば次回の特別展について先生が少し話題にしてくれるだけでも全然違う。中学生の来館が少ないというのは、文化財展のときもそうでした。見学が少ないのは、来るのが大変というのではない。先生方がちょっとアドバイスするだけでも違いは出てくるので、ぜひ館と先生たちとの間で連携してほしい。中学生が文化財等に興味をもってくれれば、将来町から遠くへ出て行ったとしても飯綱町はいいところだという気持ちをもつことができる。それはとても大事なことだと思う。

委員 交流・体験の中に、ファシリテーターやボランティアの養成とあるが、そういう方面ではお金をかけなくてもできることはあると思うので、ぜひ取り組んでほしい。

中村 申し訳ないが、会議の予定時間が超過しています。今回の協議は、このくらいでよいでしょうか。それでは、進行を富樫館長にお返しします。

4 事務連絡

富樫 どうもありがとうございました。

ひとつ事務局からの案内ですが、現在の委員の皆様が3月末までということで、ここで一区切りになります。大変お疲れさまでした。委員をここで終わられる方、あるいは来年度以降も引き続き委員をお願いする方がおられます。新年度に向けては、また手続き上のご連絡をさせていただくことがあると思いますので、その際はよろしくお願ひします。これまでの協議会の議論を通して、館の将来像が少しず

つはっきりと見えてきたと感じております。最後に馬島教育長より、あいさつを申し上げます。

馬島教育長 委員の皆様には、いろいろと貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

この館の計画をつくっていく必要があるということは、前々から富樫館長が強くいわれていました。その意味の大切さが今日の話の中でもよくわかりました。そういうものを作っておけば、たとえ予算が少ししかなくて一度に完成しなくても、今年はこちらを、来年はこちらをとやっていくことができる。一本の道筋があれば、それを積み上げた 10 年後にはトータルとして進化したものになり、20 年後にはさらにそこに深みが加わっていくと思います。そのことを大事にしながら、これからも進めていきたいと思います。引き続き協議委員となっていていただく方々には、そういう視点で、またご指導をいただきますようよろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。

富樫 これで第 3 回協議会を閉会します。長時間にわたり、大変お疲れさまでした。

(閉会)